

# 那古野一丁目地区・ 景観まちニュース



円頓寺秋のパリ祭の様子



四間道が歩行者天国になった



美濃路沿いの伊藤家住宅前の様子



五条橋の親水広場が堀川クルーズの  
発着場に

## 那古野界隈の秋はお祭りムード一色に 令和6年11月 円頓寺秋のパリ祭・四間道秋祭りなど

例年以上に暑い日が続き、ようやく秋の気配が感じられるようになった令和6年11月9日(土)・10日(日)の2日間、那古野界隈はお祭りムード一色になりました。

円頓寺商店街では、秋の恒例となった「円頓寺秋のパリ祭」が行われ、様々なショップが出店し、アーケードの下に溢れんばかりの多くの人が訪れていました。

四間道周辺では、「四間道秋祭り」が行われ、普段は自動車の通行が多い四間道が歩行者専用道路となつて道路上で生演奏が行われ、道行く人が足を止めて演奏を見入っていました。

四間道の一本東側にある堀川浴いの通りは、江戸時代に東海道宮の宿(熱田区)と中山道垂井宿(岐阜県垂井町)をつないだ美濃路です。この美濃路では、普段は閉まっている伊藤家住宅(県指定文化財)が公開され、伊藤家住宅の向かいにある米蔵を改造したお店

「SAKE BAR 圓谷(まるたに)」ではポストカードなどを売るショップも設置されていました。五条橋のたもとの親水広場では、「堀川クルーズ」という旗が何本も立っていました。名古屋城の築城とともに誕生した堀川では、名古屋城と納屋橋、熱田を結ぶ水上

交通として「堀川クルーズ」がこれまでにも何度も運行されています。この秋から五条橋乗船場が就航可能になり、名古屋城、五条橋、納屋橋と3つの乗船場を結ぶクルーズが就航され、船でこの地を訪れる人も見られました。

江川線を挟んで西側の那古野一丁目エリアでも、円頓寺本町商店街で「クラフトマルシェ」円頓寺本町」が開催されており、円頓寺本町のアーケードの下も多くの人で賑わっていました。

名古屋城と名古屋駅の間に位置し、訪れる人々が今後も増えいくことを予感される2日間でした。

# かつての那古野の風景

## 〜お風呂屋さん編〜



伊藤新平さん

那古野にはかつて、お風呂のない長屋が多く、町内の銭湯が利用されていました。子守地蔵のすぐ横で「福寿湯」を営業されていた伊藤新平さんに、当時のお話を聞きました。

伊藤新平さんが那古野に来たの

は、昭和十七年（当時5歳）頃。

西尾市（旧平坂町）から移って来られました。「福寿湯」は通称

「入込（いりこみ）」とも呼ばれていて、あみだくじのように細い道が入り組んだところにあったからだそうで、帰り道がわからなくなる人も少なくなかったとか。昭和六十三年の大みそかに閉店するまで、毎日、町内外のたくさんの方が利用していました。

銭湯は午後四時開店ですが、開店前でも夕方になると芸妓さんたちが勝手に入って来たそうです。

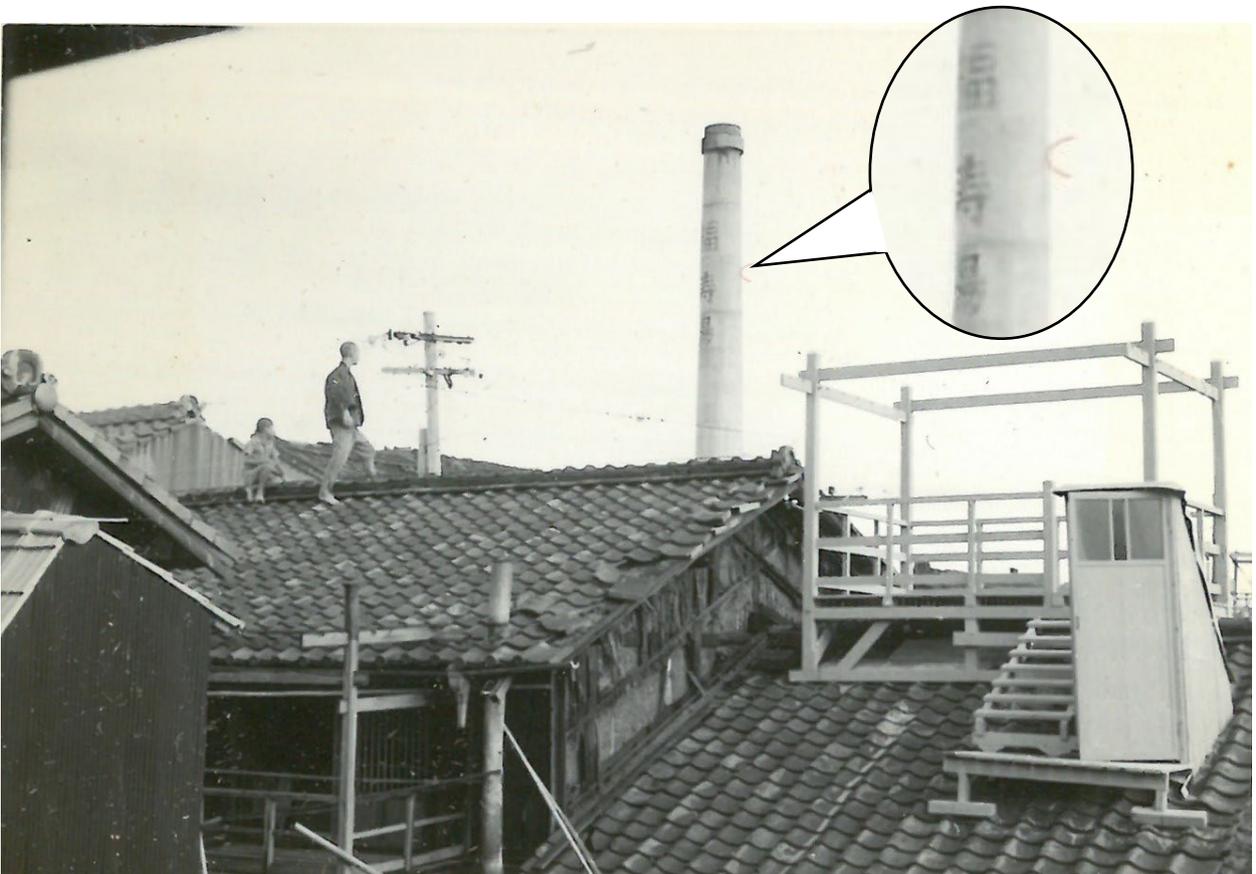
「男性客は、みんな下着姿のまま来てきたが、当時は違和感がなかった。毎日風呂で会うから、みんなが風呂友達となっていた。

新平さん談」

石鹸とタオルは番台預かりで、お客さんのタオルを毎日百枚近く、浴槽の淵にかけて乾かしていた風景があったそうです。終戦後しばらくは脱衣所に鍵付きの扉がついた脱衣箱がありました。衛生上の問題から扉がなくなり、今のような棚に籠をいれるスタイルに変わっていききました。

商店街の人はお店が終わってからの利用なので、深夜0時くらいまではいつもお客さんがありました。新平さんは定年まで会社にお勤めで帰りも遅く、お風呂掃除は深夜1時を過ぎてから。

「休みの日は、奥の窯場に入って火を焚くこともあったけど、番台にだけは入れなかった。目のやり

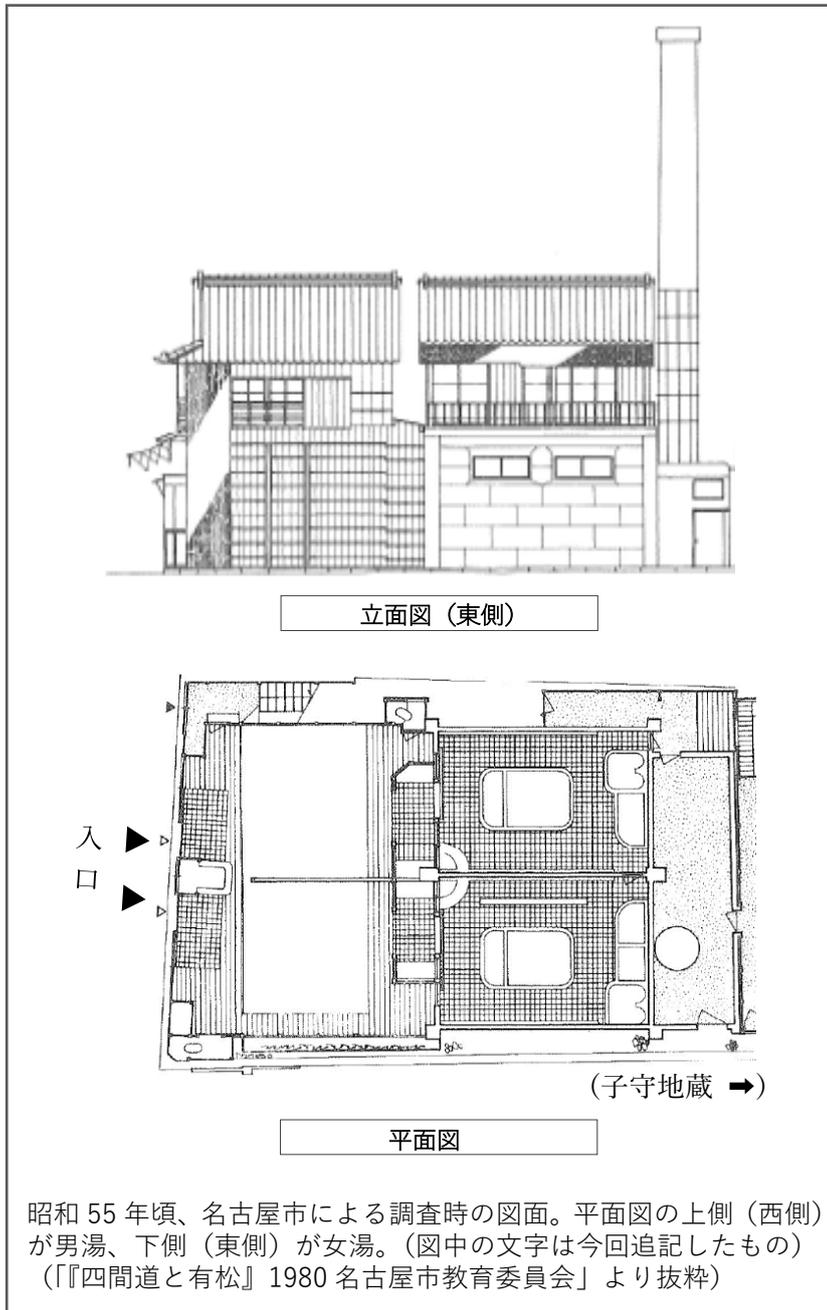


昭和34年 伊勢湾台風直後と思われる写真。

写真ではわかりにくいですが、煙突に「福寿湯」の文字が見えます（加藤一枝さん提供）。



昭和40年代頃と思われる地藏盆の写真。  
右側には屋根神様、その左にある白いコンクリートの建物が「福寿湯」  
です。「ゆ」と書かれた赤い暖簾が掛かっています。  
(子守地藏尊運営委員会アルバムより)



昭和55年頃、名古屋市による調査時の図面。平面図の上側(西側)が男湯、下側(東側)が女湯。(図中の文字は今回追記したもの)  
(『四問道と有松』1980名古屋市教育委員会より抜粋)

場に困るし、思ったより難しい仕事で、家族の中の女性が担当していた。火を焚くとき、空気が逆流する『吹き返し』が起こると、髪の毛と眉毛がチリチリになることもあった。(新平さん談)

堀川沿いには材木屋さんがたくさんあって、そこからおが屑(くず)と塵(ちり)をもらってきて燃料にっていました。自転車にリアカーを繋いで運び、足腰がとて

も鍛えられたそうです。後に燃料が重油に切り替わって、とても楽になったとのことでした。

建物の1階が銭湯で、2階は家族でお住まいでした。1階は天井が高く2層分あったので、自宅を3階と呼んでいたそうです。1階天井に暖かい空気がいつもたまっていて、自宅は暖かかったとお話してくれました。

多くの人に愛された「福寿湯」

でしたが、浴室のある家が増えてくると客足が減っていき、昭和六十三年十二月三十一日が最後の営業となりました。翌年の1月5日、役所に廃業届を出されたとのこと、そのすぐ後に「平成」という新しい時代がきて、昭和と共に福寿湯は幕を閉じました。後に建物が建替えられた時には地面から貝殻がたくさん発掘され、これはこの那古野の地がその昔、海だ

ったことを示しています。

「福寿湯」があった頃の那古野を知る人は少なくなってしまったと思いますが、ご存じの方には懐かしい景色が浮かんでくるのではないのでしょうか。現在にも残る狭い路地や町並みから、当時の風景に思いをはせるのもいいですね。

伊藤新平さん、貴重なお話をたくさん聞かせて頂き、ありがとうございました。

(文責 坂本)

# 近況報告

那古野一丁目地区景観まちづくり推進委員会では、この地区の良好な住環境や景観を守り育てていくため、年5、6回程度の推進委員会を行っています。最近の主な話題は、景観を守り育てる先進地の勉強や、景観協定のことをより多くの人に知ってもらうための方策の検討などです。

日々の活動では、このニュースの前7号で紹介した「景観協定地区」であることを表示するプレートとステッカーの周知が続いています。ニューズ7号の反響もあります。もしもありませんが、プレートまたはステッカーの掲示について問い合わせをいただく機会があり、地区内にこのステッカーやプレートを掲げたお宅が増えてきた感があります。また、建物の新築・改修や時間貸し駐車場の新設等に伴う事前相談(事前協議)については、今年度4件ありました。こうした活動に対し、今後も何卒ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

## 「那古野1丁目景観協定地区」 プレートとステッカー見本(前7号の再掲)



プレート 15cm×15cm  
樹脂二層板 1.5mm厚



ステッカー 8cm×8cm

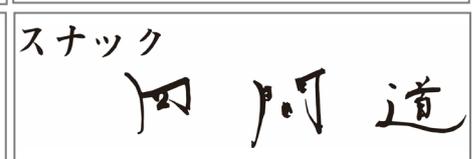
### ◆◆最近の推進委員会の活動◆◆

第22回 令和6年10月24日

報告事項、今年度及び来年度以降の活動について など

第23回 令和7年1月23日

報告事項、今後の活動に関する意見交換 など



景観まちづくり推進委員会の活動を応援してくださる店舗・企業さんを募集中です！！